

# 地域デザイン

## アジア 開発途上地域の

スタディツアーによる  
交流を通じた地域づくり

**開** 発途上地域では、お互いの実施はまだまだ少ないのが現状です。その背後には、スタディツアーという概念が社会に浸透していないこと、わかっていてもノウハウやお金がなく開催できない等、様々な理由が考えられます。しかし、自国で相互学習を進める機会を提供することは、お互いの地域をよく知ることや人づくりに貢献します。

ここでは、バングラデシュの事業で実施した、スタディツアーによる地域づくりの実践例を紹介いたします。

次の3つのスタディツアーは、外部からの資金を活用する事業の一環として、予算が確保されていたから実施できたと言えます。しかし今後は、市役所・企業・NGOが連携し、予算確保や施設の提供等、市民が参加可能な仕組みをつくることで、地域活性化や地域振興の相乗効果が高まると予想できます。

### 1 小学校教師対象 スンドルバンスの自然を体験するツアー

バングラデシュで唯一ユネスコの世界自然遺産に登録されているスンドルバンスの自然を肌で実感するため、全国82の小学校教師を対象とし、スタディツアーを開催してきました。

ここを訪れたことがなかった先生が多く、コースを歩きながらサル、鳥、カニの野生生物の観察やマングローブ林の生態等を実験しました。このことは自分が体験したことを生徒に話すという視点で、教師の生きた教材になったと考えられます。



小学校教師がスンドルバンスの自然を体験

バングラデシュ生物多様性保全の教材開発と普及啓発  
(トヨタ環境活動助成プログラム：現在実施中)

### 2 天然蜂蜜採取人対象 蜂蜜の商品化・販売を学ぶツアー

スンドルバンスの天然蜂蜜採取人が、蜂蜜の商品化や販売がどのように行われているのかについて学ぶ、スタディツアーを開催しました。

ダッカの蜂蜜製造会社や商品を置いてあるショップ、センター等を訪問し、蜂蜜商品のパッケージング、商品の配列や販売方法等について学ぶことができました。これまで、採取し



た蜂蜜を仲介業者のみに売り渡していた採取人にとっては、関係業者との意見交換や店の許可の下、実演販売をしてみる体験を通じて、顧客の嗜好や販売戦略を自分なりに考える良いきっかけとなりました。また、関係者とのネットワーク構築を通じ、スンドルバンス地域の天然蜂蜜産業の発展に大きく寄与すると考えられます。

天然蜂蜜採取人支援  
(外務省 N 連事業：現在実施中)

### 3 ウェイスト・ピッカー(ごみ拾い人) 対象 廃棄物管理等について意見交換を行うツアー

クルナ市のウェイスト・ピッカーを対象に、廃棄物管理の行き届いている街として知られるラッシャイ市で、廃棄物管理に関する意見交換を行うスタディツアーを行いました。

両市役所、住民、NGO、ウェイスト・ピッカー等の関係者が集まり、回収時刻の違い(ラッシャイ市の夜間回収)、管理を十分に機能させるための住民への粘り強い普及啓発活動等、意見交換を行い廃棄物管理のあり方を考えました。

また、クルナ市のウェイスト・ピッカーがラッシャイ市のウェイスト・ピッカーに衛生教育の講義を行うことで、ごみ拾い時の安全・健康対策について議論を深めることができました。両市の廃棄物管理の現状について相互の知見・視野が広がった学習ツアーであったと思います。

ウェイスト・ピッカー労働・生活支援 (三井物産環境基金：現在実施中)

#### ワークシート

皆さんなら、開発途上地域の一般住民を対象に  
どのような環境保全や地域活性化のスタディツアーを考えますか？  
日本の小学校での社会科見学等を思い出し、ブレインストーミングでアイデアをだしてみましょう。

内容	対象	目的	準備物	予算	留意事項
例) 廃棄物最終処分場 見学ツアー	小学生高学年 30人程	都市のごみ処理の流れや最終処分場の実態について把握	・マスク(ごみ最終処分場で使用) ・ノート、筆記用具 ・バス(移動)	・市役所の施設利用(市役所が所有するバス、意見交換を行う会議室等) ・残りは学校側負担	・PTAでの許可要 ・市役所との事前調整・許可要

文責：佐藤秀樹  
(国際事業部チーフコンサルタント)

バングラデシュにおける環境教育活動に関心がある、意見交換したい、インターンを考えている、一緒に協働プロジェクトを実施したい等がございましたら、お気軽にご相談下さい!

hideki\_sato@jeef.or.jp  
03-5834-2897



佐藤秀樹(国際事業部チーフコンサルタント)  
JICA 青年海外協力隊員(派遣国:エクアドル、職種:野菜栽培)、農業・農村開発コンサルティング会社を経て2010年9月から、JEEFの国際事業部に勤務。主に、バングラデシュで環境教育の技能を活用した、住民による持続可能な地域づくりの活動を実施中。2017年9月:東京農工大学連合農学研究科修了 博士(Ph.D. 農学)

ウェイスト・ピッカーの廃棄物管理について意見交換

